



# まるざー

石垣市の女性と男性のひろば



石垣市では、毎年旧正月に100歳と85歳の生年を迎えた方々へ額状と記念品を贈呈しております。写真は共に85歳を迎えられた入高西清佐さんと秀さんご夫妻です。妻の秀さんは、苧麻を紡ぎながらお嫁さんと家族の健康を守るため家事の手伝い、夫の清佐さんは農業をしながら、趣味の会、学習、ゲートボールと大忙し。「二人が元気であるのも、それぞれの個性を生かしながら二人三脚で支え合ってきたからです」と話す。

本市では、お年寄りを敬う心が培われていると言われております。安心して老いることができ、住み慣れた地域で親しんだ人々と支え合いながら、生きていける社会を築いていきたいものです。

No.11

2000年3月

# 「いしがきプラン」推進市民フォーラム



石垣市では男女共同参画社会の実現を目指す「いしがきプラン」推進市民フォーラム（主催・いしがきプラン地域推進委員会・石垣市）を、去る3月18日に、市民会館中ホールで開催しました。2回目の今年は、「男も女も支え合って心豊かに生きていくためには」をテーマに、年齢、職業の違う男女の皆さんによるシンポジウムが行われました。



## 主催者あいさつを する大濱市長

今日は、男女共同参画社会の実現をめざすということで、この会場には女性だけでなく、男性もたくさん参加しているようで、この石垣市もだんだんと男女共同参画社会が着実に進展してきているという実感を持っています。

行政の各分野で女性の登用が進んでいますし、市会議員も女性二人がしっかりおります。そして、各委員会や審議会でも女性の参加が目立ってきている気がします。

ところが、このような状況だけで男女の機会均等だとか男女共同参画社会ということにはならない。実は、まだまだ至る所で、私たちが気づかないものが男女の差別なり、何らかの不平等につながっていることも知らなければいけないと思います。

市会議員に女性がいるから平等になったとか、委員会で1/3が女性登用されたから男女共同参画になったとか、このような外見的なものばかりでなくて、本当に意識の中で男女の不平等や差別を無くすということが、今後ますます重要になってくる。そして、いよいよ本物の男女平等社会、男女共同参画社会がこれから進んでいくものと大きく期待しています。

沖縄県は、いち早く女性副知事を登用して、男女共同参画社会づくりの先進県でした。

沖縄の女性はよく働いて、戦後の荒廃した沖縄を立ち上げさせたとも言われており、男女共同参画社会ということでは進んでいる県であり、女性が活躍しているところとも言われています。

このような素地を大事にしつつ歴史や風土を大切にしながら男性と女性が助け合って、住み良い街づくりができるものと大変期待しています。





# シンポジウム

テーマ

男も女も支え合って心豊かに  
生きていくためには！

パネラーのみなさん



沖縄県男女参画青年  
政策会議委員

島袋綾野さん

- 就職と職場における男女平等について
- お茶くみはどうして女性なの？  
「女性の敵は女性」  
女性自身の意識改革が必要



国際交流員

レンキスト・セスさん

- 役割分担の中からお互いのフリータイムを
- 5時以降は家庭優先、家族全員での付き合いを



平真小学校PTA

下地憲治さん

- 結婚当初から彼(夫)をしっかり教育する。  
何もかも二人でやっていくことです。押し付ける事なく相手を思いやる心が大事。



八重山地区農山漁村  
組織連絡協議会会長

鳩間初子さん

- 畜産経営の中でいきいきと輝いていけるのも夫の支え、仲間の支え、地域の支えがあるから。後継者育成のためにも家族経営協定書に基づいた経営を。

## シンポジウムの適切な進行、そしてたくさんの 助言をいただきました。



コーディネーター  
潮平 俊さん



コメンテーター  
大城貴代子さん

### フォーラム参加者たちの声

- ★意見にうなずける部分が多く、自分の考え方を改めて見つめ直す機会を得た。主人と一緒に参加できれば良かったのに。
- ★男女平等ばかり取り上げる最近だが、女がそれを盾に強くなり過ぎて、その弊害が子育てや地域活動に出てこなければいいが。
- ★女性を育てるのは女性、私たちが息子と嫁に協力して支え合わなければ、と思った。

## 「いしがきプラン」地域推進委員会が 学習会並びに委員会を開催



2月1日に第2回「いしがきプラン」地域推進委員会（仲吉八重会長）が、市会議室で開かれました。この日は学習会が行われ「いしがきプラン」作成に携わった潮平俊さんを講師に「いしがきプラン」ができるまでのこと、基本的な考え方、計画の体系等を学習した。その後委員会では今後の活動計画について、毎年フォーラムを開催し、市民と共に推進して行くことが話し合われた。



# ミスニュース

ミス＝未婚、既婚を問わず人権を重視した女性の総継承。

## おめでとう ございます



不登校児童の指導、特殊教育の研究推進に励み小学校教諭として35年間にわたり、地区教育の振興に大きく貢献したとして、沖縄県教育委員会教育長より表彰を受けた、慶田盛邦子さん。



市交通安全母の会結成当時から永年にわたり、地域の交通事故防止活動に参加し、積極的に推進その実績が認められ、全国交通安全母の会連合会長より表彰を受けた登野原キヨさん。



永年にわたり、幼稚園教育の振興に貢献したとして、文部大臣より教育功労感謝状を受けた大宜味キヨさん。退職後も市幼稚園教育振興会議の委員も務め今日まで41年余りも幼稚園教育に尽力。

### 新垣幸子さん

伝統文化ポララ賞(伝統文化の保存、継承、育成に功績のあった人に贈られる賞)の贈呈を受けた。八重山上布の「括り染め」を古文書などを手掛かりに研究復活。

### 六原恵子さん

保健婦として、無医地区だった住民の健康管理に貢献35年間にわたり公衆衛生事業の推進に尽力したとして、日本公衆衛生協会会長表彰を受けた。

## 石垣市民舞愛好会に文部大臣賞



「いつでも、どこでも、だれとでも踊れる」を合言葉に、民謡・レクリエーションの普及活動をしながら会員相互の親睦と健康づくり、又地域のボランティア活動や福祉に貢献したとして、最高のスポーツ功労賞である文部大臣賞を受賞。又会長の前新科子さんは、永年レク指導者として常に地域づくりに貢献したとして日本レクリエーション協会会長賞を受賞。活動の輪も八重山はもとより、宮古、沖縄本島、ハワイへと広がっている。



## 男女平等の 社会をめざして

伊原間中学校3年  
新里 真奈美



「真奈美、ごはん食べ終わったら洗濯物たんでね」と母に毎日のように言われてきました。

私は4人兄弟の内のたった一人の女の子です。そのため、小さいころから「女の子だからお家の手伝いをしなさい」と言われ続けてきました。

当然のように、私だけが洗濯機や洗濯物を干したり、たたんだりと家事を手伝わされてきました。私が手伝っているとき、父や兄たちはテレビを見たり、お風呂に入ったりとそれぞれに自由な時間を過ごしていました。

それを見てわたしは、「どうして自分だけがこんなことをしなくちゃいけないの？」と思っていました。今思えば、母は将来私が嫁いだときに何もできなくて困らないように、最低限の身の回りのことができるようにと考え、私を手伝わせることで頼（しつけ）てくれていたのではないのかなと思うようになりました。

しかし、そんな理由でも私だけに家事を手伝わせていたのでは、私は気分が良くありません。兄弟4人が協力し合い分担してやっていたら、もっと積極的に手伝ってあげたいと思います。きっと母の心の中には「女の子は家事をして、男の子は外で働く」という昔の考えが根強くあったのだと思います。

でも、これからの時代は男も女も平等に働いて、家事も平等にすべきだという考え方になってきていると思います。当然、男の子が家事をして女の子が外で働いて暮らすという家庭も増えてくるでしょう。

しかし、それでもまだ昔の風習が残っていて、女性が外で働いて活躍している姿を見かけることはとても少ないように思います。まだまだ、社会の中で女性が外で働くことを好ましくないことだと思っている人が多いという表れでしょうか。

現在でも女性は、社会生活を営む上でいろいろな差別を受けているようです。例えば、就職が難しかったり、就職できたとして

も給料が男性より少なかったり、男性と同じ仕事をやりこなせても出世が男性より遅かったりなどいろいろあります。

また、最近は職場で女性が男性から性的な嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けていることも問題になっています。「女だから仕事はできない」「女のくせに目立つな」と思っている人がセクハラのような行動をとるのだと思います。

女性だって自分の好きなやりがいのある仕事をして、活躍したいと思っている人は大勢いると思います。それなのに、女だからという理由だけで、その人の実力や才能を決めつけるのはとてもいけないことだと思います。それは、女性の人権を無視していることになるのではないのでしょうか。

日本国憲法では、私たち一人ひとりをかけがえのない存在として、大切にしようという考えがあります。法の下ではすべての人が平等でなければならないのです。

女性が男性と平等に社会の中で活躍できるようになるためには、女性自身が自覚を持ち、男性中心の社会の仕組みや人々の意識を変えて行く必要があると思います。

それから、世の中の男性が女性を一人の人間として、貴重な人材として認めることだと思います。

今までの女性は、「女は家のことだけをしていればいい」と言われ、夫の言いなりになり、自分の意志というものが、むりやりおしつぶされていたように思えますが、私はそんな女性にはなりたくありません。自分のやりたい仕事をして、自分の意思をしっかりと持てるような、そして行動力のある力強い女性になりたいです。

男女雇用機会均等法では、「女性労働者が性別により差別されることなく、かつ、母性を尊重されつつ、充実した職業生活を営むことができるようにすることをその理念とする」とあります。この法律が守られて、女性が社会の中で活躍できるように、世の中になってほしいです。その世の中を創造していくのが私たちです。

今の社会はまだ男性中心の社会ですが、いつかは本当の意味での男女平等の社会が実現されることを願っています。

私は、一人の人間であることを、一人の女性であることを誇りに思い、自身を持ち、これからの社会を力強く生きて行きたいと思っています。

男女平等の社会を目指して……。

99年度中学校人権作文コンテスト  
沖縄県大会 最優秀賞 受賞作品

## 共生社会をめざして

「中学生と乳児のふれあい体験学習」 健康増進課主催



# ドメスティック・バイオレンスとは

夫や恋人、親密な関係にある男性から女性に加えられる暴力のこと

★夫婦間のことは、私的なこととされ経済的な力関係、世間体などを気にしてこれまでは表面化されず、家庭内に閉じ込められてきました。しかし、今日では、この問題に対し社会的にも高まりつつあり避難所、相談所といった社会制度、施設の充実などが望まれています。

■夫や恋人からの暴力も犯罪です。世の中には、暴力に苦しむ女性たちがいます。家庭で職場で地域で話し合い一緒に考えていきたいものです。

夫やパートナーからの暴力被害経験の有無



注：(1) 回答者は夫又はパートナーのいる女性1,183名。

(2) 「まったくない」及び「無回答」については、図では提示していない。

(3) ( )内の数値は、「何度もあった」及び、「1、2度あった」を合わせた回答の割合（内訳の各割合は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計と一致しないこともある）。

資料出所：東京都生活文化局『女性に対する暴力』調査報告書（平成10年3月）により作成。（男女共同参画白書）より



# 女性講座いしがき'99 閉講

「自分らしく生きるために、あるがままの自分を見つめて、ありたい自分を探し確立する」をねらいとする女性講座が修了。今回は、4回目から閉講式までの紹介です。

## 第4回 環境とからだ 講師 宮良悦子氏

- ◆毎日の食卓を考えよう
  - ①朝食をしっかり取る。
  - ②塩や砂糖のとり過ぎに注意。
  - ③食べ残しや食品の廃棄を減らしましょう。
  - ④多様な食物をバランス良く食べましょう。
- 地元で取れる食材を生かした行事食を日常食にして行くことが、長寿と健康の源になる



## 第5回 家庭の中の男女平等 講師 宮良和子氏

家庭内での男女の役割の分担意識は依然として根深いものがあります。男性の理解と女性の自覚が必要です。



## 第6回 「女性の翼」研修報告 新城由利子さん



カナダへの視察研修「女性の地位向上、環境、ゴミ問題、老人、福祉、教育問題」課題解決は、「幼児教育、体験学習」であることを再認識。



グループ討議 家族を代表するのは夫？



男の子の子で異なる親の期待？

## 閉講式 修了生代表の砂川京子さん



男女平等が当たり前の社会になるためには私たちの意識の改革が必要だと高感した。



受講生のみなさん

## 表紙

まるざーは、八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座に成って情報を交換し未来を語り合うことを象徴して命名した。